

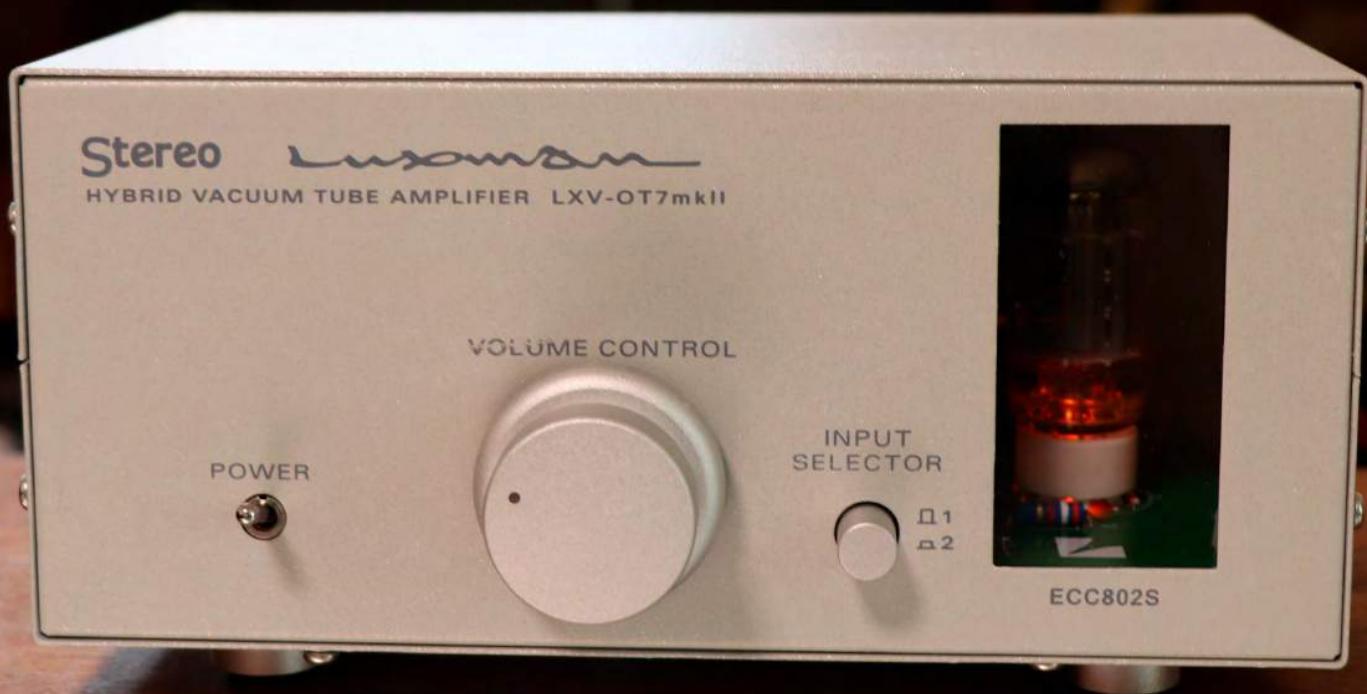
ラックスマン

真空管ハイブリッドプリメインアンプ・キット 「LXV-OT7 mkII」組立てガイド

stereo

ON TOMO Shop

STAM-007



この度は、stereo × ONTOMO Shop 商品をお買い上げください、誠にありがとうございます。
ご使用の前に、このガイドを必ずご一読くださいますようお願いいたします。

第Ⅱ期発送分修正版

安全上のご注意 (真空管キット“LXV-OT7mkII”、付属 AC アダプター)

- 付属 AC アダプターは日本国内専用です。日本国外では使用しないでください。
- 組立が終わるまでは、絶対に AC アダプターを接続しないでください。
- キット添付以外の部品は、ご使用にならないでください。
- 必ずケースに入れた状態でご使用ください。ケースなしでのご使用は、事故や感電の危険があります。また、お子様の手に触れないようご注意ください。
- 真空管は使用中に高温になります。誤って手を触るとやけどの危険があります。また水滴等の液体がかかると破損する恐れがあります。
- ケース後ろ側、パワーアンプ取付ねじと付近のパネルは使用中発熱します。移動させるときなど、手を触れないようご注意ください。
- 組み立てられたキットに対する保証はありません。
- 付属 AC アダプターと電源コードは本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。また、付属の AC アダプター以外は使用しないでください。
- 本機 DC IN 端子へのプラグ抜き差しは、必ず電源スイッチを切り、AC アダプターの電源プラグをコンセントから抜いた状態でおこなってください。
- 外出時や長期間ご使用にならない場合は、AC アダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。



警告 (AC アダプター)

●本機の電源スイッチを切っても、電源からは完全に遮断されません。そのため、電源コンセントの近くに設置し、容易に AC アダプターの電源プラグを抜くことができるようにしてください。●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなど異常のあった場合は、AC アダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因になります。

キットの取り扱いについて

お客様御自身がこのキットを製作され使用する場合の、部品選定や構造については、お客様が組み立てられても性能を満足するように考慮しています。組立て上の注意をよく確認して安全な製品を製作されるよう、お願ひいたします。

その他

- 当ショップでの組立てサービスなどは一切行なっておりません。必ずご自身で完成させてください。
- 真空管やコンデンサー等の交換・改造につきましては自己責任で行なってください。交換・改造による故障や損害については対応いたしかねます。
- 初期不良による交換期限は 2020 年 10 月末までとさせていただきます。

問い合わせ先:『ONTOMO Shop』サポートセンター

MAIL: ontomo-shop@ongakunotomo.co.jp

受付時間: 平日 11:00 ~ 17:00

(時間帯によっては不在にしていることがあります)



真空管ハイブリッドプリメインアンプ・キット

「LXV-OT7 mkII」を組み立てる

お送りしております箱の中には、3つの梱包材に上の写真の部品が入っています。組立ての前に、すべての部品が揃っているか必ずご確認ください。※ネジ類など小さな部品も多数ございますので、取り出しの際に紛失しないようご注意ください。

梱包材①

- ① シャーシ（底板）
- ② シャーシ（天板）
- ③ シャーシ（フロントパネル）
- ④ シャーシ（リアパネル）
- ⑫ 真空管 ※高信頼管
- JJ ECC802S (スロバキア製)

小分け袋内

- ⑤ ボリュームつまみ（アルミ無垢）
- ⑥ 基板固定用リベット（3個）
- ⑦ インシュレーター（アルミ無垢、4個）
- ⑧ パッド（4個）
- ⑨ 両面テープ（4枚）
- ⑩ ワッシャー（2個）※1個は予備
- ⑪ 六角ナット
- ⑫ セレクタースイッチノブ（アルミ無垢）

- ⑬ 放熱板固定用ナベワッシャーヘッドネジ
- ⑭ 放熱板固定用ワッシャー
- ⑮ 放熱板固定用ナット
- ⑯ ネジ（15本）（シャーシおよび端子類固定用）
- ⑰ アンプ IC 用放熱板
- ⑱ ボリュームアースキク座（9mm）
- ⑲ 基板上アース用ネジ
- ⑳ シャーシフロント底板アースキク座（3mm）
- ㉑ 基板上アース用ワッシャー

梱包材②

- ㉓ 電源コード
- ㉔ AC アダプター

梱包材③

- ㉕ 完成基板

お客様ご自身でご用意いただくもの

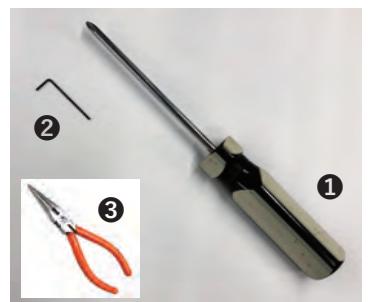
① プラスドライバー

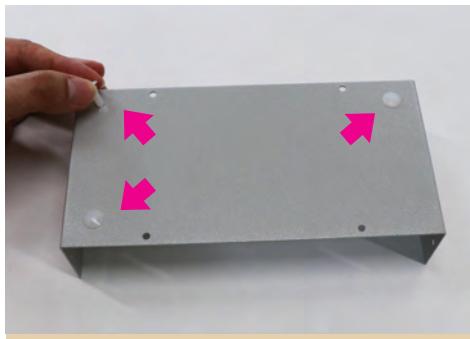
本キットは、ネジでシャーシに溝を切っていくタッピングネジを採用しています。最初はネジの進行方向に体重をかけて力を加えながらじっくりと回して締めてください。100円ショップなどのドライバーでは、刃先が潰れる可能性があります。ホームセンターなどで、しっかりしたドライバーを選んで製作に臨んでください。

② ボリュームつまみ用六角レンチ

1.5mmをご用意ください。

③ ラジオペンチ または レンチ

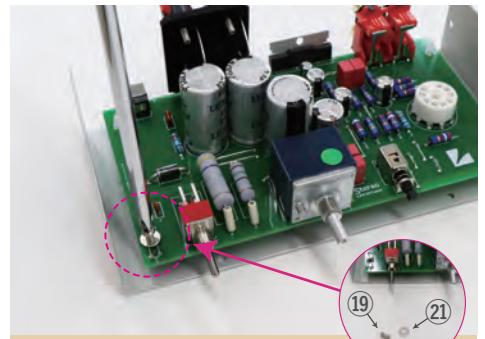




1 シャーシの底板①の下から、基板固定用リベット⑥を3箇所、奥まで差し込む



2 シャーシの底板①と完成基板②を差し込んで固定する



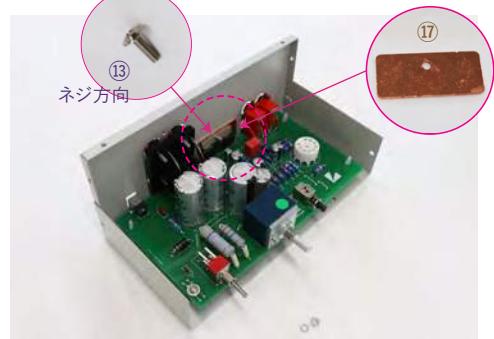
3 シャーシ底板と完成基板に基板上アース用ワッシャー②とネジ⑯で締める



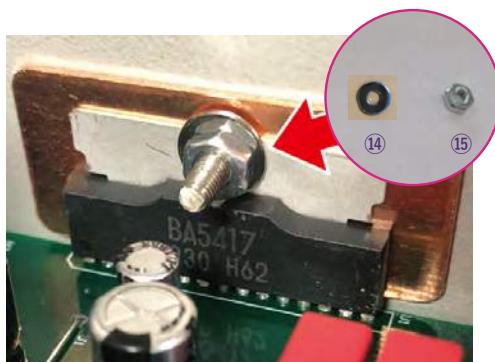
4 リアパネル④をネジ⑯で仮締めする（両脇2箇所）



5 シャーシのリアパネル④をあてがい、基板上のRCA端子およびスピーカー端子を内側から手でおさえながら、ネジ⑯固定する（合計3箇所）



6 リアシャーシ内側とアンプICの間に放熱板⑰を挟み、リアシャーシ外側からナペワッシャー・ヘッドネジ⑯で貫通させる



7 手順⑥で貫通させたネジに、内側からワッシャー⑯、ナット⑰の順で締める（リアシャーシ外側からドライバーで内側のナットをラジオペンチで押さえながら締める）



8 フロントパネル③をネジ⑯で仮締めする（両脇2箇所）



9 フロントパネルから出たボリューム軸にボリュームアースキク座⑰、ワッシャー⑯、六角ナット⑪の順で固定する（六角ナットはラジオペンチやレンチで締める）

※レンチの場合は11mmを使用



六角レンチ(1.5mm)
※お客様にてご用意ください

10
インプットセレクターにスイッチノブ⑫を押し込んで装着。
さらにボリュームつまみ⑤の下部に1.5mmの六角レンチを挿入し、ボリュームつまみ内部にあるネジをまわして固定する



11 シャーシ底板を固定する4箇所をネジ⑯で仮締めする。その際、アース付近の箇所にはアースキク座⑰、ネジ⑯の順で締める

※ネジはいったん緩めて軸に入れて、つまみの角度を見ながらちょうどいい位置で締める



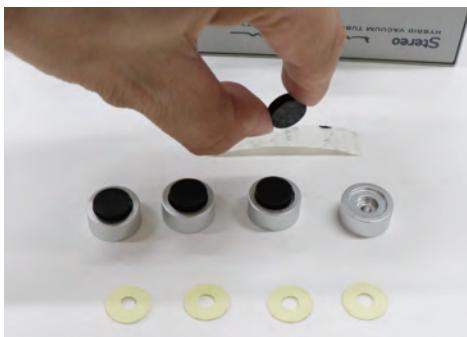
12

真空管⑫をソケットに左右に少しづつ振りながら慎重に差し込む



13

シャーシ天板②をかぶせ、ネジ⑯で仮締めする（両脇4箇所）。シャーシにズレがないか確認し、これまで仮締めしていたすべてのネジを本締めする



14

インシュレーター⑦の溝の中にパッド⑧を貼り付ける



15

両面テープ⑨の保護紙をはがし、インシュレーター⑦の上部に貼り付ける



16

手順⑯で貼り付けた両面テープ⑨の保護紙をはがし、任意の場所にインシュレーター⑦を貼り付ける

※「LXV-OT6」「LXV-OT7」「LXV-OT8」にはゴム脚接着の目安の溝がありましたが、本キットにはありません



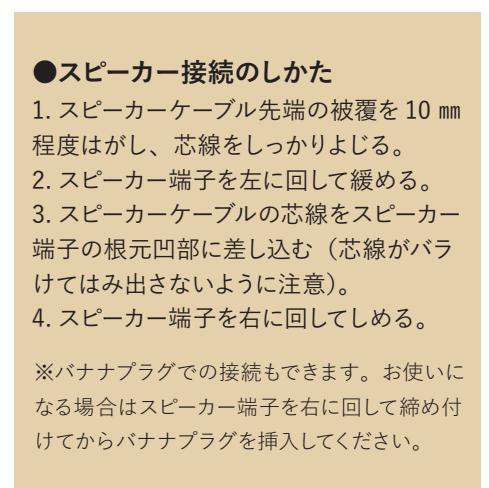
17

電源コード⑬とACアダプター⑭を差し込む



18

完成



●スピーカー接続のしかた

- スピーカーケーブル先端の被覆を10mm程度はがし、芯線をしっかりとよじる。
- スピーカー端子を左に回して緩める。
- スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元凹部に差し込む（芯線がバラけてはみ出さないように注意）。
- スピーカー端子を右に回してしめる。

※バナナプラグでの接続もできます。お使いになる場合はスピーカー端子を右に回して締め付けてからバナナプラグを挿入してください。

真空管ハイブリッド・プリメインアンプ LXV-OT7mkII で再生してみよう

●操作する前に

- 接続が確実に行なわれているか確認してください。（L、Rや+、-の接続に誤りがあると正常な再生ができません）なお、本機に接続されるスピーカーシステムは、4Ω～16Ωのインピーダンスのものがご使用になります。
- 電源オン／オフ時やインプット・セレクターを切り替えるときは、ボリュームコントロールを最小にしてから行ってください。

●再生の手順

- ボリューム・コントロールの音量が下がっていることを確認し、電源スイッチを上げてオンにします。
- 再生するソースをインプット・セレクターで選択します。
- 音量をボリューム・コントロールで調整します。

※ボリュームを上げる際、アンプの出力限界を超えた場合、真空管の特性上、音は歪みます。